



「地域医療連携ニュース」

神奈川県立こども医療センター
副院長 猪谷 泰史

当院の周産期医療部門は1992年に周産期棟を新築して開設されました。小児病院で初めて産科を併設してハイリスク妊婦を受入れ、胎児から新生児まで一貫した周産期医療を行うことができるようになりました。当初、母性病棟30床、新生児病棟49床（うちNICU 9床）でしたが、NICUを1995年に11床、1996年15床と増床し、2008年にはNICU21床まで増床しました。1996年には総合周産期母子医療センターの指定を受け、母性病棟に母性・胎児集中治療室(MFICU)9床を整備しました。最近では胎児形態異常疑いの産科外来紹介が年間350例程で、新生児病棟入院患者の60%以上が先天異常児です。胎児診断例は産科での精査の後に産科・新生児科だけでなく他の診療科も加わって、胎児カンファレンスで分娩や出生後の治療方針を決めています。特に胎児心疾患は循環器専門医が診断し、説明にも加わっています。最近の母体緊急搬送は年間80～100例で、うち半数が分娩後に新生児がNICU入院となります。

前児異常や前回妊娠・分娩トラブル、母体合併症など妊娠・分娩に不安を持つ女性に対する妊娠前の相談窓口の妊娠前外来もユニークな取り組みで、新しい命のためのサポートセンターにて胎児相談外来と共に行っています。

母性内科では妊産婦の内科的疾患への対応とハイリスク妊婦のスクリーニングなどを行っており、妊娠高血圧性腎症や妊娠糖尿病では次回妊娠への継続したフォローを行っています。

新生児科ではきめ細やかな循環管理で、超低出生体重児の死亡率や神経合併症を減らし、全国トップレベルの成績を上げています。重症新生児仮死に対する神経予後改善に有効な低体温療法も積極的に行っています。2016年より新生児科部長が豊島勝昭医師に交代し、新生児病棟も同胞面会・家族面会などのファミリーセンタードケアを推進し、新生児の痛みのケアや緩和ケアにも積極的に取り組んでいます。

本年から設備が古くなった周産期棟の改修が始まります。2年間にわたり診療を続けながら改修を行いますので、皆様にもご迷惑をお掛けしますが、完成後にはNICUも27床に増え、さらに多くの重症新生児を受け入れられるようになる予定です。緊急搬送の御依頼にできるだけ対応できるようにしたいと考えています。今後ともよろしくお願ひします。

神奈川県立こども医療センター外科 ～未来を担うこども達を支えます～



外科部長 新開 真人

神奈川県立こども医療センター外科のミッション
新生児から思春期まで、一般的疾患から難治性の
先天疾患や腫瘍疾患まで、頸部、胸部、腹部など
幅広い領域の外科的疾患に、最善を尽くして取り
組んでいます。

①24時間365日対応

鼠径ヘルニア嵌頓や急性虫垂炎などの一般的な疾患は
もちろん、新生児疾患や腫瘍疾患など小児外科疾患に
は救急対応が必須です。24時間365日オンコール体制
で迅速に対応しています。年間800件程度の全身麻酔
下手術・処置の経験の積み重ねは私達の財産です。

②目立たないキズ

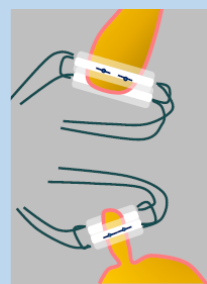
新生児・乳児に対する臍輪切開による開腹手術や幅広
い年齢層に対する内視鏡外科手術(腹腔鏡、胸腔鏡、
縦隔鏡)など、整容性にすぐれた手術を行っています。
さらに内視鏡外科学会技術認定医が統括することで
安全性を担保しています。胃食道逆流防止手術、胆道
拡張症手術、虫垂切除術、横隔膜ヘルニア手術などの
実績があります。



当センターで発信している
新しい手術の工夫

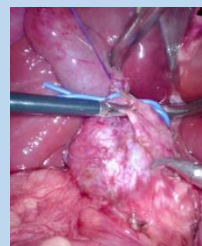


肝芽腫の病巣をピンポイントで光らせるICGナビゲーション
→術前画像では検出できない転移巣も発見し、正確かつ徹底した切除が可能に



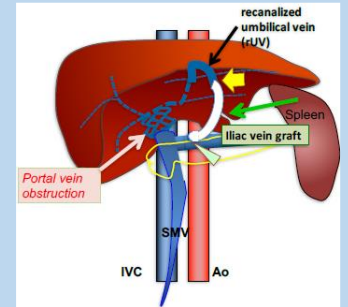
A型食道閉鎖の早期根治手術を可能にする食道延長術
(Foker変法)
→代用食道ではなく食道を用いた生理的再建が早期に可能に

内視鏡外科手術



③BEST OF BEST

いわゆる小児の難病の診断・治療に最高の成果を目指して取り組んでいます。小児がんでは拠点病院として他科とチームを結成し、腫瘍生検、中心静脈カテーテル留置から原発巣摘出術、転移巣切除術まで、「あきらめない」をモットーに診療しています。出生前診断された新生児外科疾患は新生児管理のエキスパートである新生児科と協同し、さらに治療が困難な稀少疾患(形成異常)にも救命のみならずQOL向上を目指した治療をおこないます。胆道閉鎖症では葛西手術のみならず生体肝移植まで実現可能で、途切れることのない一貫した治療がうけられます。



肝外門脈閉塞症を根治できるmesoRexバイパス手術
→肝内門脈血流が増え門脈圧が下がり、食道静脈瘤や脾腫が消失

④短期入院

鼠径ヘルニアや臍ヘルニアなど小手術については日帰り手術を選べます(年間300件前後)。喘息などの疾患を合併している場合、腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術(LPEC)をご希望の場合、形成外科と協同の臍形成術は2泊3日です。一方、従来は開腹・開胸手術で行われた手術も、内視鏡外科手術(腹腔鏡、胸腔鏡、縦隔鏡)へ移行することにより入院期間が短縮してきています。



超音波ガイド下リンパ管腫
選択的硬化療法
→頸部リンパ管腫を切除せず縮小化し気管切開の回避を目指す

私達が担当致します。

日本外科学会専門医、指導医
日本小児外科学会専門医、指導医
日本内視鏡外科学会技術認定医
がん治療認定医、小児がん認定外科医
日本静脈経腸栄養学会認定
NST専門療法指導医
日本移植学会認定医
周産期新生児医学会認定外科医
日本消化器外科学会専門医



神奈川県立子ども医療センターの基本理念と基本方針

1 基本理念

こどもの健康の回復及び増進と福祉の向上のため、最善の医療を提供します。

2 わたしたちのちかい

あなたの「げんき」と「えがお」のためにみんなでちからをあわせます。

3 基本方針

- (1) 患者さんの命と安全を第一に考えます。
- (2) 患者さんと家族とともに医療を行います。
- (3) 高度、先進的な医療を行うとともに、積極的に臨床研究に取り組みます。
- (4) こどもの発育、発達を考えた療養環境、教育環境を整えます。
- (5) 周産期・小児医療と保健・福祉に携わる人材育成に努めます。
- (6) 地域の関係機関と連携し、周産期・小児医療の充実、向上に貢献します。
- (7) 透明度の高い病院運営と情報公開に努めます。

【研修のご案内】

H29年度 第3回 地域医療支援事業研修会

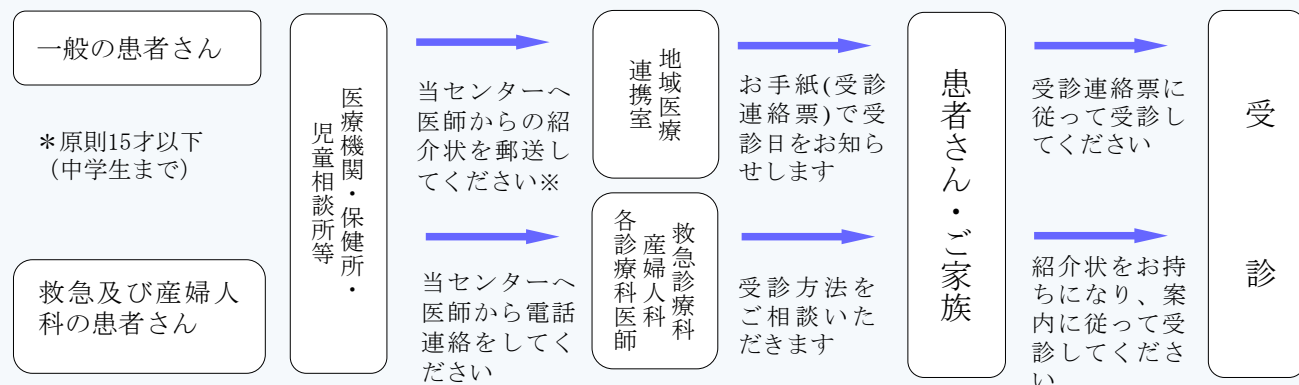
- ☆ 日時：平成30年2月22日（木） 19:00～20:30
- ☆ 場所：当センター本館2階講堂
- ☆ お問合せ：地域医療連携室
- ※ 詳細はホームページに掲載予定

第15回 小児重症例検討会

- ☆ 日時：平成30年3月2日（金） 19:00～21:00
- ☆ 場所：当センター本館2階講堂
- ☆ お問合せ：地域医療連携室
- ※ 詳細はホームページに掲載予定

【紹介予約受診システム】

当センターは、医療機関や保健所等の医師からご紹介いただいた患者さん原則15才以下（中学生まで）が、初診の予約をお取りになり受診していただく「紹介予約制」を取らせていただいております。予約の方法・手続きにつきましては下記をご覧ください。



※紹介状の郵送は患者さんからでも医療機関からでも構いません。

※1 紹介状の添付資料（画像やフィルム等）も紹介状と併せて事前にお送りください。

※2 紹介状用紙（料金受取人払）の送付をご希望の場合は、地域医療連携室までご連絡ください。

編集・発行

地方独立行政法人神奈川県立病院機構

神奈川県立子ども医療センター 地域医療連携室

〒232-8555 横浜市南区六ツ川2-138-4 TEL 045(711)2351 FAX 045(710)1933

<http://kcmc.kanagawa-pho.jp/>